■効果の見える治水事業

香川県　高瀬川（三豊市）の治水事業

『高瀬川総合流域防災事業』

香川県西讃土木事務所長　児玉（こだま）　学（まなぶ）

高瀬川は、善通寺市、仲多度郡琴平町、三豊市高瀬町にまたがる琴平山に源を発し、三豊市高瀬町、三野町において支川を束ねながら北西へ流下し、三豊市詫間町で瀬戸内海に注ぐ流路延長約19km、流域面積約67㎢の二級河川です。山間部から平野部に入る地点において勾配が急激に変化する地理的特性を持ちます。

過去の災害をみると、昭和35年の台風11、12、16号や昭和38年の豪雨による洪水や内水被害が発生しており、最近では、平成2年の台風19号により、三野町北部において浸水家屋24戸、平成16年の台風23号により、浸水家屋6戸(うち床上浸水2戸)の内水被害が発生しています。

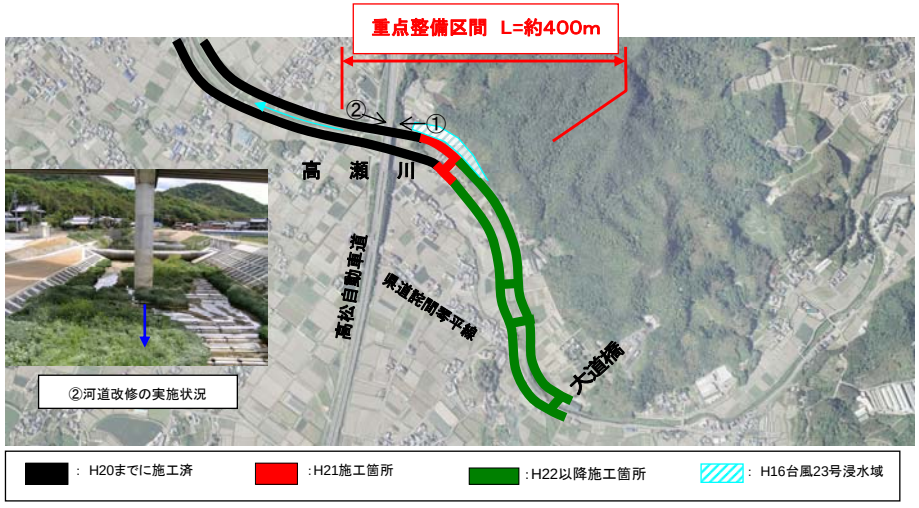
このように度重なる水害を契機として昭和41年度を初年度として河口から大道橋上流までの築堤、引堤掘削等の改修工事に着手し、順次整備を進め、現在、高松自動車道の交差付近まで完了しています。引き続き上流区間の改修工事を進めていくにあたって、平成17年度より、流域単位による包括的な施設整備を目的とした、総合流域防災事業により、近年浸水被害を被った区間（L＝約400m）を当面の重点整備区間に位置づけ、狭窄区間の解消や橋梁・取水堰の改築を実施しています。

平成15年12月に策定した高瀬川水系河川整備計画においては、大道橋から下流の平野部にわたり、概ね50年に1回の降雨で発生する洪水を安全に流下させることを目標にした流下能力の確保と、瀬や淵の復元や水生生物の移動の連続性を確保するための魚道を設置するなどの自然環境の保全・復元に努めるとともに、人と川のふれあいの場となるよう親水性に配慮した河川改修を実施するものとしています。

今後とも地域と連携を図りながら洪水被害の防止または軽減に努めるための必要な治水事業を推進しつつ、河川環境の美化・保全にも配慮した良好な水辺空間の確立を目指します。

位置図

①平成16年10月台風23号による被災状況



「『市民力』を発揮した安全・安心なまちづくり」

香川県　三豊市長　横山（よこやま）　忠始（ただし）

三豊市は香川県西部に位置し、南は阿讃山脈で徳島県と、北は瀬戸内海の中央部に当たる燧灘と備讃瀬戸に接しており、粟島、志々島、蔦島などの島しょ部も見られる、海から山まで変化に富んだ地形をしています。中央部には三豊平野が広がり、東部から西部に向かって財田川、東部から北部に向かって高瀬川などの河川が流れ、豊かな田園空間を形成しています。また、瀬戸内随一の眺めとの呼び声高い紫雲出山、四国霊場八十八ヶ所の大興寺、本山寺、弥谷寺、国内最大級の窯跡群として知られる国指定史跡宗吉瓦窯跡など、多くの観光資源を有しています。

本市には北東から南西方向に高松自動車道、国道11号、377号、JR予讃線が走り、南東部には南北に国道32号、JR土讃線が走っており、幹線交通軸を形成しています。JRの分岐点である多度津駅、高松空港などの結節点にも近く、四国における交通の要衝に近接した恵まれた交通立地条件にあり、さらに海上交通の拠点として、国際貿易港である詫間港、マリンレジャーの盛んな仁尾港の2つの地方港湾を有しています。

本市では平成20年に三豊市新総合計画を策定し、『自主・自立』を基本理念として、『“豊かさ”をみんなで育む市民力都市・三豊』をまちの将来像に掲げ、市民・市民組織・民間企業・行政の連携によって生み出される『市民力』を発揮した新しいまちづくりに取り組んでいます。

さて、本市中央を流れる高瀬川は、普段は瀬戸内式気候のため年間降水量が少なく、穏やかな流れを見せています。しかし平成16年の度重なる台風襲来の際には様相が一変し、特に台風23号による豪雨では護岸が被災するなど大きな被害を受け、中流域から上流域にかけて抜本的な改修の必要性が再確認されました。現在は国、県のご尽力により河川整備が着々と行われており、洪水被害対策が進められております。

本市の防災行政では、消防団の育成強化、自主防災組織の充実を図るとともに、市民の安全・安心を確保するため三豊市総合防災マップを作成して各世帯へ配布し、高瀬川、財田川のハザードマップを作成して浸水想定区域内の自治会全世帯へ配布しました。また、情報伝達システムをデジタル防災行政無線に統一するための整備を進めています。

今後は「自分たちのまちは自分たちの手で守る」という精神のもと、自助・共助・公助の理念に立った地域防災体制を強化し、『市民力』を発揮して地域ぐるみで助け合う安全・安心なまちづくりをめざします。

自主防災組織の防災訓練

防災訓練での救命士による救急救命講習